

# ネット・ケータイ指導の Q & A

山形大学基盤教育院 准教授  
加納 寛子

## 1. コンピュータウイルスが怖い？

ネットやケータイの指導に関して、不安を持つ教育関係者や保護者の方とお話をしていると、いろいろな誤解や誤解から来る過度の不安をいだかれています。2009年度末に騒がれた、Webサイトを閲覧するだけで感染するランサムなどのコンピュータウイルスが流行ると、ネット上にはウイルスが蔓延していて、危険なサイトがたくさんあるから、ネットは怖いと思う人がいるようです。コンピュータウイルスは最近生まれたばかりの問題だと思っている人もいます。いつ誕生したのでしょうか？

Brain という名前のコンピュータウイルスは1986年にパキスタンで誕生しました。ちょうど24歳になります。大学を卒業して就職し2年ほど働いたぐらいの年齢です。高卒で働けば社会人6年目です。24歳の青年を見て生まれたばかりなどという人はいないでしょう。今年いっぱいには四捨五入して二十歳ですが、来年四捨五入すれば三十路、もうコンピュータウイルスもそんなに若くはないのです。もちろん、たくさんその後輩を従えています。下図のウイルス届出件数の年別推移を見ますと、2004年、2005年をピークに、届出数は減ってきています。20代半ばのコンピュータウイルス、そろそろ新作を生み出す元気が失われているようですが、無数のウイルスが、ネット上を彷徨っています。

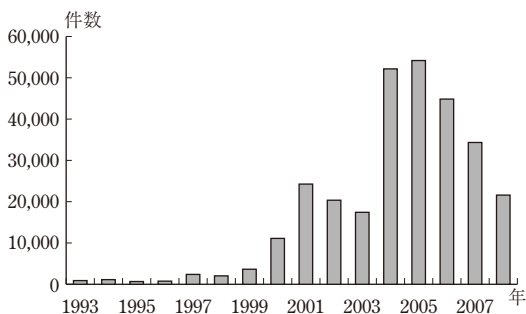


図1 ウィルス届出件数の年別推移  
(独立行政法人 情報処理推進機構 セキュリティセンター、  
<http://www.ipa.go.jp/security/outline/todokede-j.html>)

このようなことを書くと、やはりネットはウイルスが怖いと思う人もいます。

空気中にだってたくさんウイルスはあります。深呼吸をすれば、たくさんウイルスを肺に吸い込むことになります。免疫力が弱っていれば、すぐにいろいろなウイルスに感染してしまいますが、我々は、おぎゃあと生まれたその日から、ウイルスに対抗すべき抗体を体内に蓄積し続けています。抗体が少ない幼い頃は、すぐに病気にかかりがちですが、手洗いうがいなど、徐々に、病気にかからないようにするための予防法を身につけていきます。ウイルスが蔓延する空気中で生活をしながら、感染を未然に防ぐ方法を学びつつ成長していくのです。

子どもにはネット・ケータイは危険だからと禁止しては、いつまでも抗体ができてきませんし、予防法も身に付きません。社会に出るまで禁止をしておいて、いきなりウイルスや怪しいサイトがたくさんある世界に飛び込んだのでは、当然被害に遭うでしょう。

また、情報の信憑性を指導しなければいけない大人が、ウィニーなどの事例を挙げて、「P2P = ファイル交換ソフトなので、P2Pは違法」などと、誤った情報をネット上に発信したり、それを信用してしまっている場合もあります。少し情報について勉強している高校生ぐらいですと、「P2Pはスカイプなどにも使われている通信方式だから違法ではないよ」と反論することでしょう。情報について知らない大人が、ネット・ケータイは危険、注意しましょう、と言ったところで効力は低いと言わざるを得ません。ネット・ケータイの指導をするためには、正しい知識を大人自身が持つ必要があります。そこで、誤解が多い内容や、質問の多い内容を中心に、Q & A形式で解説していきます。

## 2. ケータイを持たせると自分の裸の写真を撮るようになる？

生徒の裸の写真がネット上に公開されているなど

の事件が起きると、学校中大騒ぎになります。写真の顔が、にこやかに笑っていたりすると、該当生徒を頭ごなしにしかってしまう場合もあるようです。

ある高校に、普段から万引きや深夜遊行を繰り返す素行のよくない女子生徒がいました。トイレの中でたばこを吸っていて、たばこの臭いをさせて出てきたところを咎めると、「たばこは吸っていません」などと平気で嘘をつく生徒でした。ある時、その生徒のプロフに裸の写真が掲載されていると学校中で騒ぎになりました。うれしそうなお顔で写っていたため、彼氏にでも撮らせたのか、プロフのアフィリエイトでおこづかいを稼ぐために自分で撮ったのかのどちらかだろうと決めてかかりました。本人は全く身に覚えがないと主張しましたが、たばこの一件がありますから、素行の悪い女子生徒の言い分を誰も信じようとしませんでした。当然プロフはすぐに閉鎖され、生徒は自主退学をしていきました。高校を退学して何年もたった後に、裸の写真に写っていた自分の顔は、修学旅行の時に撮った写真の表情と全く同じであることに気づきました。修学旅行で撮った写真は、プロフに載せた覚えはあるとのことでした。裸の写真は情報の専門家に調べてもらったところ、顔は本人であるが、首から下は、別人のものだという事でした。

生徒の写真と思われていた裸の写真は、アイコンと呼ばれる写真合成による写真だったのです。アイコンとは、アイドルコラージュの略で、一般には、アイドルの顔と別人の胴体の部分を合成する方法です。イラストで描いた画像と本物の写真などの組み合わせもよく見かけます。本物の写真同士をつなげる際も、ペイントショップなどの写真編集ソフトを利用すると、容易に合成ができます。アイコン用の無料ソフトも多数存在し、高いパソコンスキルは必要としません。

本当は悪意のある第三者を徹底して取り締まるとよいのですが、「通信の秘密」や「表現の自由」などの法律が足かせとなり、なかなか取り締まりが進んでいないのが現状です。こういった状況は、これまでも新しいものが成熟するまでの過渡期にたびたび起きています。ですので、対処方法としては、生徒の裸の写真がネット上に公開されているなどの事件が起きても、慌てず、適切な対処をする必要があります。まずすべきことは、公開されている写真の削除

です。次にアイコンの可能性も視野に入れて、該当生徒によく話を聞き対処することです。

### 3. 日本では、なぜ1日に数百通もメールを送る生徒がいるの？

ケータイを片時も放せないケータイ依存、友達からメールが来たらすぐに返事をしなければと焦燥感に駆られる即レス症候群に陥る生徒が、日本には少なからずいます。しかし、ケータイから1日に数百通もメールを送る行動が問題になるのは、日本以外で聞いたことがありません。ネットいじめなどは海外でも問題点として指摘されていますが、単にケータイからメールを送ること自体は全く問題ととらえられていません。ですから、海外では生徒のケータイメールに関する調査報告はほとんどありません。

なぜでしょうか？考えられる理由は2つあります。

しばらく前に、100ドルPCが途上国に配布されるなどの世界的なPC普及プロジェクトOLPCの成果<sup>1)</sup>もあり、日本以外では、先進国の子どもも途上国の子どもも、小学生のうちから1人1台自分専用のパソコンを持っています。手で回したり足で踏んだりして発電するため、電気が通っていない地域ですら、1人1台パソコンを所有しています。これを利用して、いつでもどこでも、ネットにアクセスできますので、ネット検索もメールも、ほとんどパソコンで行います。パソコンでネット検索やメールのやりとり慣れた子どもは、中学生や高校生になっても、ケータイで頻りにメールを送ったり、ネット検索をしようとは思わないでしょう。パソコンを使い慣れた子どもにとって、ケータイでのメールやネット検索に魅力はないのです。我々大人も、パソコンのメールから入った世代は、ケータイでメールを送るのは面倒と感じる人が多いはずです。つまり、日本以外では小学生のうちからパソコンを使い慣れているために、ケータイにははまらないというのが1つめの理由です。

2つめの理由としては、通信料の問題です。日本でも最近では、学生のうちは基本料金が無料であったり、安さをアピールする広告をよく見かけるようになりました。しかし、基本料金が無料であると、少しネット検索をしたり、動画などをメールに添付して友達に送ったりしているうちに、すぐに1万円を超してしまうというケースも少なくありません。

日本ほど携帯電話の通信・通話料がかかる国はありません。下記(表1)に中国の携帯電話会社「中国聯通(チャイナユニコム)」の通信料を紹介しましょう。およそ、1分1～2円程度の通話料金で、基本料金はかかりません。1時間話をしても、60円～100円程度です。一方、日本の場合、基本料金無料のプランですと、1分あたり約40円かかりますから、2400円かかってしまいます。1メガ程度の写真1つをメール添付するだけでも2500円かかりますし、着うた1つダウンロードするだけで約5000円かかります。定額制に入っても入らなくても、少し利用するだけで5000円以上かかってしまう仕組みになっています。

1日に数百通もメールを送る生徒の場合、メールといっても、一言二言の長さです。メールで延々と会話をしているために、あっという間に100通を超してしまうわけです。メールであれば、1通あたり数円で済みます。1時間ぐらい、友達と話をしたいことがあった場合、2400円もかかることがわかっている通話は利用しないで、数円で済むメールを何通もやりとりしているのが日本の現状です。通話料が高い故に、通話でなくメールを利用し、会話であれば起きないような誤解から様々なトラブルを生んでいるのです。

メールで会話をしようとしているために、返事が来ないと不安になったり、片時も手放せなくなるのです。もし、1通話1～2円であれば、返事が来ないとやきもきしている間に、電話をし、相手が食事中であったり、親にしかられている真っ最中であったりなど、相手の状況を知ることができます。

ケータイ依存や即レス症候群から解放する手だての1つは、携帯電話の通話料金を中国並みにすることでしょう。基本料金なし、1分1～2円の通話料

であれば、ケータイメールをやめて通話に切り替える生徒たちがかなり増えるはずです。

もっとも、一晩中ケータイで友達と通話をしていたなど、海外でも起きている問題が、日本でも起きる可能性は十分あります。

#### 4. 日本はケータイ先進国? ガラパゴス化?

携帯電話会社の広告などを見ると、日本の携帯電話は多機能で進んでいると思わせるような記載をよく見かけます。世界の動向とずいぶんかけ離れているというデータがあっても、ガラパゴス化などと呼ばれ、世界の動向とは異なるけれど、日本は独自の方向で進化しているという主張なのです。ガラパゴス諸島は先進国か否かを考えれば、ガラパゴス化という表現は一理あるかもしれませんが、しかし、平たくいえば、遅れているだけであって、日本はケータイ先進国の後追いをしているに過ぎないという認識が必要です。

2005年にマルタ共和国で行われたモバイル・ラーニングという国際会議に出席した折に、日本以外の国の人々は、皆そろって、スマートフォンを持っていました。当時日本ではエクセルやパワーポイントが編集できるスマートフォンは全く流行っていませんでした。

帰国後しばらくして、W-ZERO3を発売と同時に買い求め、利用してみましたが、エクセルやパワーポイントなどわざわざケータイでは利用しないことに気づきました。なぜなら、たいい出張の時には、小型パソコンを持ち歩いています。エクセルで表計算をしたい、プレゼン用のパワーポイントに修正を加えたいと思えば、パソコンを開きます。W-ZERO3でパワーポイントを修正しようと思っても、画像がたくさん張り込んであるファイルは、動きが遅くて仕事効率が悪く、とても実用的とは思いませんでした。

ケータイが過渡期のうちは、こんな機能もつけられる、あんな機能もつけられると、いったんは盛りだくさんの機能になりますが、成熟期に入ると洗練され、利用されない機能はそぎ落とされていきます。

現在の洗練された海外のケータイと比べ、日本は多機能で進んでいると考えるのは大きな誤解です。日本以外のアジアの国々や欧米で今流行っているケータイは、腕時計型のケータイです。製造元をみ

表1 「中国聯通(チャイナユニコム)」の通信料

プラン名	月額基本料	音声通話料	メッセージ送信
如意通 (GSM/CDMA 選択)	なし	着信: 無料 発信: 0.2 元 / 分	1 通 0.1 元
新勢力 (CDMA)	なし	着信: 無料 発信: (7～21時)0.12 元 / 分, [その他]0.1 元 / 分 国内ローミング: 0.6 元 / 分 (上海以外)	1 通 0.1 元
ホスト サービス	45 元	0.36 元 / 分	1 通 0.1 元

ると、ほとんどが、Made in Chinaになっています。中国製の腕時計型ケータイが世界中に出回っているのです。

アメリカのショッピングサイトを見ると、1台100ドルほどです。時計を買い換える感覚で、腕時計ケータイが購入できます。すぐにケータイを置き忘れたり鞆の奥にしまいがちの人にとっては、腕にはめておけるという点は便利です。GPSとインターネットを利用すれば、腕にナビがついている状態になりますので、両手が荷物でふさがっていても、ナビに道案内させて歩行することができます。

また、日本では、ひもを引っ張ると防犯ベルになっているケータイなどもありますが、小学生の場合、ケータイを持っていても鞆の中にしまいがちです。不審者に出会っても鞆からケータイを探している間に誘拐されてしまうでしょうし、防犯ベルを引く前に、取り上げられてしまうかもしれません。しかし、腕時計型であれば、腕のボタンを押すだけで、GPS情報とともに親やセキュリティ会社に通報がなされますから、日本のケータイよりは子どもの安全に役立つでしょう。

もちろん、腕時計型にエクセルやパワーポイントはついていませんが、簡易のワープロソフトは入っていますから、ちょっとした文章であれば入力することもできますし、音声で録音することもできます。

さらに、パソコンを介さず、USBメモリを直接ケータイに接続してデータを移動させることができる点も便利です。

ケータイを腕にはめている国々では、日本よりケータイの普及がかなり進んでいます。たとえば、日本では小学6年生の24.6%が携帯電話を所有(文部科学省調査2009年2月)している状況ですが、韓国では、日本の小学6年生に当たる12歳までに、87.7%の子どもが携帯電話を所有しています。9割



図2 腕時計型携帯電話 (写真提供: LG Electronics)

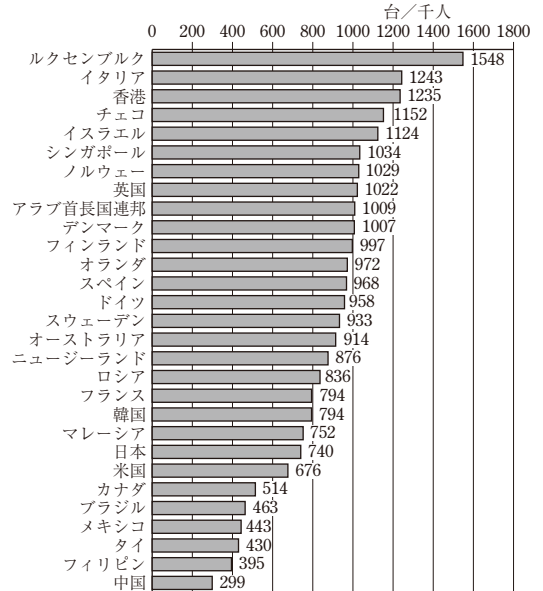


図3 携帯電話普及率の国際比較(2005年)  
http://www2.ttcn.ne.jp/honkawa/6360.html

の小学生が携帯電話を所有している国では、少なくとも持ち込み禁止等の発想は生まれません。学校でも、当然持っているものとして小さい頃から徐々に指導されつつ利用していきますから、自然に節度ある利用方法を身につけることができます。

図3に示しますように、大人世代も含めた携帯電話の普及率は、36カ国中第22位なのです(図3では中国以下は略)。平均的な国よりも低い普及率に位置する日本では、約74%の普及率です。

先進的な端末を生み出している中国は、都市部と農村部の格差が大きく、普及率の点では日本より下回っています。

ただ、普及率の点から見ても、端末製造の面から見ても、日本はもはやトップを走っていないという認識が重要です。トップにとどまっていると思っていたために、国内で起きている目先の問題をどうするかばかりに気をとられ、その場しのぎの対症療法的な発想しかできていないのが、今の日本の現状です。

世界にはネット・ケータイの利活用が進んでいる国々がたくさんあるわけですから、日本よりも頻繁に利用している国の子どもが、なぜ問題を起こさないのか、根本から検討する必要があるといえるでしょう。

#### 参考文献

1) One Laptop per Child (OLPC), <http://laptop.org/en/>